

文・写真 松澤美穂

地方 民鉄 紀行

江ノ島電鉄株式会社



沿線住民と観光客を乗せて
ゆつくりと走る江ノ電。
寺社が点在する海沿いの
街をゆく姿は、
それ自体が観光名所の
ひとつになっている。

江の島、湘南、茅ヶ崎、鎌倉……。観光名所が点在し、近年では住宅地としても大人気のこのエリアで観光客と沿線住民の移動を支える江ノ電は、2010年11月に全線開通100周年を迎えた。

江ノ電では、首都圏近郊の人気観光地として、従来から年間を通して多彩なイベントを企画実施しているが、記念イヤーの2010年は「江ノ電の歌」のお披露目から始まり、グッズの発売や江ノ電キャラクター「えのん」の制作、リバイバルカラーの記念電車の運行など、いつにもまして多くのイベントを行っている。

好きです江ノ電

藤沢駅で電車を待っていると、どこからか歌声が聞こえてくる。音源をたどっていくと、頭上に設置されたモニター画面「WAVEビジョン」に、走る江ノ電と沿線の観光名所などを盛り込んだ映像が、歌と一緒に放映されている。この歌が作詞作曲を公募して作られた「江ノ電の歌」だ。

歌の制作は100周年記念事業のひとつとして行われたものだが、そもそものきっかけは地元のコミュニティ新聞「江ノ電沿線新聞」にある。ここ以前から「江ノ電に歌をつくってはどうか」という読者投書がいくつも寄せられていたことを聞きつけて、100周年記念に併せた制作を決めたのだという。

コミュニティ新聞の性質から考えると、読者の大半は江ノ電の利用者。利用者の側から

「江ノ電に歌を」と望まれるなんて、幸せな電車だ。

約900通の応募作品から選ばれた歌詞には「好きです江ノ電」のフレーズが繰り返して織り込まれ、メロディーは校歌のような懐かしい雰囲気。WAVEビジョンは利用者の多い藤沢、江ノ島、長谷、鎌倉の駅に設置され、定期的に「江ノ電の歌」が流されている。

ドラマのような

海が近く、自然にも恵まれた江ノ電沿線には、ドラマや映画の舞台として使われるような撮影ポイントが点在している。

藤沢駅から7つ目、七里浜と向き合うように建てられた木造の駅、鎌倉高校前駅もそうした撮影ポイントのひとつ。改札を出てすぐのところにある踏み切りも、何かのドラマで見たことがあるような、ないような。

ホームに立つと、右手には江の島、目の前には一面の海が広がる。天気さえ良ければ江の島の先に富士山まで見渡せる「関東の駅100選」にも選ばれた駅だ。

ところが当日は残念ながら、雨。海も空も灰色で、すっきりと晴れ渡ったドラマのような景色は見えない。

しかし、等間隔に建つ柱や木製のベンチ、駅名標やイベントポスターまで、駅にあるものすべてが、しっとりとした水分を含んで、雨の日なりの何ともいえない雰囲気がある。

海の中には雨にも負けないサーファーの姿

江ノ電 【えのでん】

藤沢から鎌倉まで、15駅を約34分で結ぶ。10kmにわたる沿線には人気の観光名所が点在している。2010年11月4日、全線開通100周年を迎えた。



目の前是一片の海。
天気良ければ富士山も



ドラマや映画の舞台になることも多い





鳥居の目の前が踏み切り



落ち着いたたずまいの極楽寺駅



桜橋から極楽寺駅を見下ろす

もちらほら見えて、晴天、雨天にかかわらず、「絵になる」ことに変わりない。

鳥居の前をすり抜ける

次も「関東の駅100選」の駅の一つ、極楽寺駅で途中下車。

緑に囲まれた駅のたずまいは、静かに落ち着いていて、海岸沿いにある鎌倉高校前駅とは趣が違う。

駅の脇にある桜橋は、片側からは江ノ電唯一のトンネルを、もう片側からは緑に囲まれた駅が見下ろせる、鉄道ファン絶好の撮影ポイントだ。

極楽寺駅と次の長谷駅の間には、駅名になっていない極楽寺や長谷寺、あじさいの名所である成就院などがあり、寺社を巡りながら一駅歩く人も多い。道々に各寺社へ向かう標識が立てられていて、迷っ心配はない。

トンネルを長谷側に抜けた先にある、もうひとつの人気撮影ポイント、御霊神社へ向かって歩いてみる。住宅街の中には古民家を改装したカフェなどもあり、寄り道も楽しい。しばらく行くと住宅の間に踏み切りと鳥居が見えてくる。その光景になんとなく違和感を覚えながら近づいて、びっくり。

住宅の裏側に線路と踏み切り、そして御霊神社の鳥居がくっつきそうなくらいの距離で建っている。神社の側で踏み切りが上がるのを待つ場合、立ち位置は鳥居をほんの一步出た辺りか、境内になってしまうほどの近さだ。遠目には、踏み切りがあるのに電車の走る

スペースが全くないように見えるのが違和感の原因。

住宅と鳥居の間、ギリギリのスペースをすり抜けて走っていく江ノ電の姿は嘘のようで、確かに絶好の撮影ポイントだ。

観光名所、江ノ電

長谷駅に近づくにつれ、どんどん観光客が増えてくる。遠足らしい小学生の集団と、修学旅行らしい中学生の集団が行き来して、駅周辺は雨降りの平日とは思えないほどの大賑わい。「次どこ行く?」「お土産、何買っ?」「...鎌倉へ向かう車内にもぎやかなしゃべり声に溢れている。

観光を急ぐ乗客は目的の駅に着くと一斉に改札へと流れていくが、立ち止まって電車の写真を撮る人も予想以上に多い。長谷駅から乗ってきた、青くレトロ調にペイントされた開業95周年の記念電車は珍しいのか、「青いの、来た」と喜ぶ子どもたちの声もする。

100周年記念式典の日から運行を開始したばかりの記念電車のペイントも、100年前のリバイバルカラーで茶色が基本。こちらも緑とクリーム色が基本色の江ノ電の中では珍しい。95周年と100周年、2つの記念電車に出会える確率はどのくらいなのだろう。

海と山とに囲まれた人気の観光地。そこを走る江ノ電も、観光客にとっては重要な観光名所のひとつだ。動く名所を写真に収めて、さて次はどこへ行こうか。



100周年のペイント電車



95周年のペイント電車